

令和 2 年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第 1 回）【概要】

（案）

日時：令和 2 年 7 月 27 日（月）午前 10 時から正午まで

場所：千葉県教育会館 5 階 会議室 501

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司、忍田 直之、川名 聡彦、平賀 洋一、深山 和利、横山 昌彦、安江 博昭、
長島 貴浩、佐久間 勝彦、小熊 隆、藤ヶ崎 功、櫻井 澄香、岡部 成行

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会挨拶

（3）委員紹介

（4）委員長、副委員長選出

（5）報告

①令和 2 年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果について

②令和 2 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における中学校及び高等学校からの意見について

③令和 2 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について

④令和 2 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

⑤令和 3 年度千葉県公立高等学校第 1 学年入学者選抜要項について

⑥その他

（6）協議

①令和 4 年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

②令和 3 年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の課題（追検査など）について

③その他

（7）閉会のことば

3 協議内容

（1）令和 4 年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

令和 4 年度入学者選抜の日程について、案の趣旨等を説明。

（意見等なし）

・この日程案について、次回第 2 回協議会において再度意見をいただくこととする。

（2）令和 3 年度千葉県公立高等学校入学者選抜以降の課題（追検査など）について

令和 3 年度入学者選抜以降の課題について意見を求める。

・一本化で、インフルエンザ等の罹患によって試験が受けられない場合に、追検査を設定していた

だいたことに感謝している。

- ・コロナウイルスの影響によって受検ができなかった場合には、2週間程度外出等ができないため、追検査も受検ができない可能性がある。そのようなケースが心配である。
- ・これまでの公立高校の入試方法について、中学校から様々な意見を出してきた。その意見を汲んで、改善していただいていることは非常にありがたい。
- ・皆勤の扱いについてもお願いをしている。各学校において選抜・評価方法に特色を出すことはとても良いことだが、皆勤だけを評価し、調査書の他の事項は見ないという学校もあるようである。中学校では生徒たちには調子が悪ければ無理に登校しないよう指導している。皆勤がこれだけ評価されるといふことに、非常に戸惑いを感じている。
- ・中学校側の方針と高校の方針とが一致するような形で今後検討してほしい。
- ・昨年度に比べて入試書類の簡素化が進み、ありがたく思っている。学習成績一覧表の扱いなど、さらに簡素化が進んでいるところだが、一層の簡素化、ペーパーレス化、ウェブ出願等について、県においても研究し、入試業務の簡素化を推進してほしい。

(3) その他

追検査も受検できなかった新型コロナウイルス感染者等への特例的な対応を、あらかじめ検討しておく必要があると考え、令和2年度選抜における対応と同様、第2次募集後に特例の追検査を設定した日程案を示し、意見をいただいた。

- ・中学生が授業を受けられない期間が4月、5月にあった関係で、社会と数学と理科の一定の分野、単元について出題しないという話があったが、国語と英語は特に措置がなく、社会、数学、理科に限りこのような措置が行われたことについて、何か理由はあるのか。
→各中学校へのアンケート調査及び中学校、高等学校の代表者による協議会での意見等も参考に、英語と国語の内容については、学習を終えることができるという判断から、今回出題範囲の削減をしていない。
- ・数学の標本調査はいろいろな場面で将来役に立つ学習内容で、文系でも理系でも活用できるもの。出題範囲から外されているのは、学ぶことができなかった生徒たちが可哀そう。学習はしても試験に出題されないのが重要ではないと生徒が判断することのないようにしなければいけない。
→学習指導要領の学習内容自体は、中学校卒業までにはしっかりと学習することとしている。
- ・コロナウイルス関連の追検査について、検査の内容や会場など、具体的にわかっていることがあるのか。また、中学から高校への学習の接続が大変重要なので、出題範囲が削減されるということで、中学校の先生方には大変苦勞をお掛けすることになる。受け取った側も頑張る。本年度入試が一本化となり、すべてが新しい経験になるので、検査運営上の、具体的で明確な指示をお願いしたい。
→现阶段で特例追検査の詳細についてはまだ決定していないが、様々な意見をいただきながら、できるだけ早く方針をお伝えしたい。
- ・まずコロナウイルス対応による特例追検査に該当する生徒はどのような生徒なのかを明確にする必

要がある。臨時休校となっている中学校の生徒、PCR検査で陽性の生徒、家族がPCR検査陽性等で登校を控えている生徒等の扱いについて明確にしておく必要がある。追検査を3月3日に行って5日に発表する時は、定員を遵守する形で発表すると思うが、コロナウイルス関係者の定員はどうなるのか、目安のようなものが必要である。加点の問題についても、皆勤という概念を今回該当させることについては、いろいろな問題が出てくるのではないかな。

- ・コロナウイルス対応の特例追検査を受検する生徒が、10名いる高校、5名いる高校というように、状況は学校によって異なると思う。その場合、何人の定員枠を残すのかということに対する目安を校長にすべて任せるのはおかしいのではないかな。
- ・風邪気味で登校させて感染が広まることは避けなければいけない。そのため、私の学校ではそのような生徒の登校を控えさせている。その場合は欠席扱いにはしないようにしている。
- ・皆勤の捉え方を、次年度はもう少し慎重に考えていかなければならないのではないかな。
- ・3月3日の追検査をやめて、3月19日に一本化して実施するというのも一つの手である。今年だけの対応という意味でとれば、追検査は、インフルエンザもコロナウイルス対応も1つにまとめてしまえば、本検査を休んだ理由を問わず、発熱等の連絡があればわかるので、3月19日に1つにまとめて実施するという判断もよいのではないかな。